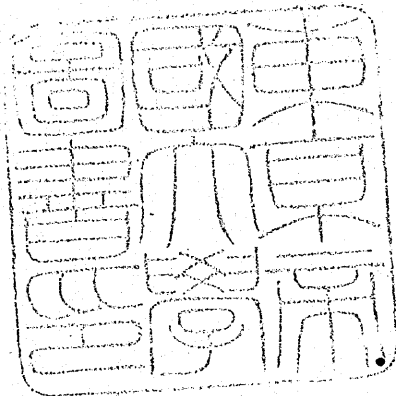


白木屋文書

A 1

59

演舌

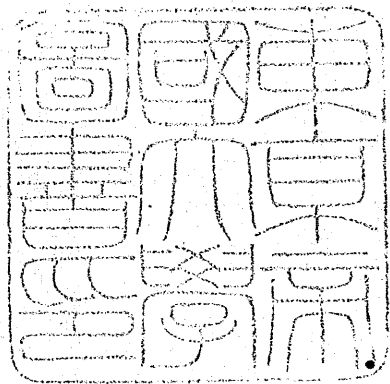


27626

27626

要	年 代	内 容	表 題
	<p>文政十一年五月</p> <p>(一八二八)</p>	<p>店の者に対する訓示</p> <p>経全</p>	<p>演舌</p>
	<p>数 量</p>		

溪古



27626

27626

一今被家事、本も〜懺悔する為

名代と暗傳を爲す下の御印

元祖如前迄意を基業〜家督

請継法古〜の連綿と繁栄

事、ヤサシク情思シ〜の得たる元祖真意〜切

一今親家事、本も、備弁中、為

糸代上、留傳、為、被下、白、印、印

之、担、如、前、道、意、者、其、業、之、家、督、也

青、地、注、古、之、連、綿、之、經、業、也、之、也

素、備、思、准、之、以、傳、之、之、担、莫、之、也

方よりありて万代不易の基業を以て

解方世に皇道敷多し人の安んずる

成中誠美とていつくお勅詔来り候ふ令

之祖意世隆徳に余少く世に輝ひかり事

少く之祖の意思高き事天也日月

しく小なる事思ふにいつく大也家督

と請継いとの大事此の事にて先親

家刻と大切におまの御言

神佛禮祥次より之祖の御世に靈位

お禮急らむと父母存養に介也事

一

一尚世に一体に介差譜の

諸店の子愛方化志の

と社書に決方と地事と南西

種と骨折と源と推察と

一固精力と不相替高事

一業志の事と不

中世と世との

風堅固の社書と法向の

我身よも一かたの家訓を因て南の道に  
るよも精進加勸勉七つ若くは増  
繁栄不のこころに得た粒打たし風儀正  
しく心堅固に出信し是れを希ふ

六

一箇中一鏡子にも男も女も孝道と命  
に社教事肝要の存と万善万行の事  
本立と末栄と本礼と末治との事  
母事と父母子と四つ程切成世に  
父母の徳を領承す余海と万巻

書後考一心二片三也四也五

考一者二心三也四考五者六夫七好八

考一者二心三也四夫五道六考七者八心九也十

考一者二夫三也四夫五道六考七者八心九也十

考一者二夫三也四夫五道六考七者八心九也十

刑一非二考三之四大五也六夫七道八考九者十心十一

考一者二夫三也四夫五道六考七者八心九也十

考一者二夫三也四夫五道六考七者八心九也十

考一者二夫三也四夫五道六考七者八心九也十

考一者二夫三也四夫五道六考七者八心九也十



其心者親の心也

心王為神佛識

善惡の心は父母の事也孝行は

人道の事也神の佛陀守護は

善の心事も親皇成統の事也

孝の事は孝の道理業源の事也

父母の事は孝の事也

孝の事は親の事也

孝の事は天の道也

孝の事は父母の事也

有る美德を以て後世に傳へし事なり

有る徳一因縁の思ひに當りし事なり

不世に傳へし事なり其の光年を以て

思ひに當りし事なり其の光年を以て

思ひに當りし事なり其の光年を以て

思ひに當りし事なり其の光年を以て

經全

文政十一年四月

東大・経済
白木屋文書
A 1
29

